

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

<噴火予報（噴火警戒レベル1：活火山であることに留意）が継続>
十勝岳で火山性地震が増加しており、火山活動の活発化が考えられますので、今後の火山活動の推移に注意が必要です。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況（図1～4）

27日16時頃から62-2火口付近を震源とする火山性地震が増加しており、27日0時から20時までに100回（速報値）観測しました。地震の日回数が100回を超えたのは、2015年5月13日以来です。

62-2火口近傍に北海道大学が設置した前十勝西の傾斜計では、16時頃からわずかな傾斜変動が観測されました。

監視カメラによる観測では、62-2火口等の噴煙・噴気の状態に特段の変化はありません。

十勝岳では、噴煙の高い状態、地熱域の拡大や温度上昇が続く中、1月20日以降火山性地震のやや多い状態が続いていることから、火山活動の活発化が考えられますので、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

この火山活動解説資料は、札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、北海道大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

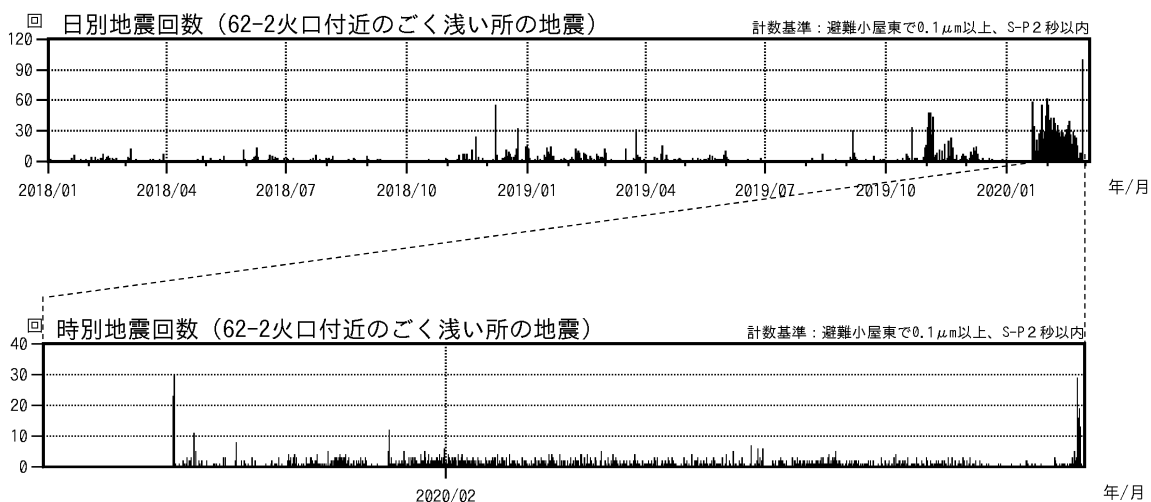


図1 十勝岳 火山性地震の発生状況

上段：日別地震回数（2018年1月～2020年2月27日）

下段：時別地震回数（2020年1月15日0時～2月27日20時）

避難小屋東地震観測点における変位振幅 $0.1\mu\text{m}$ 以上、S-P2秒以内の地震を計数しています。

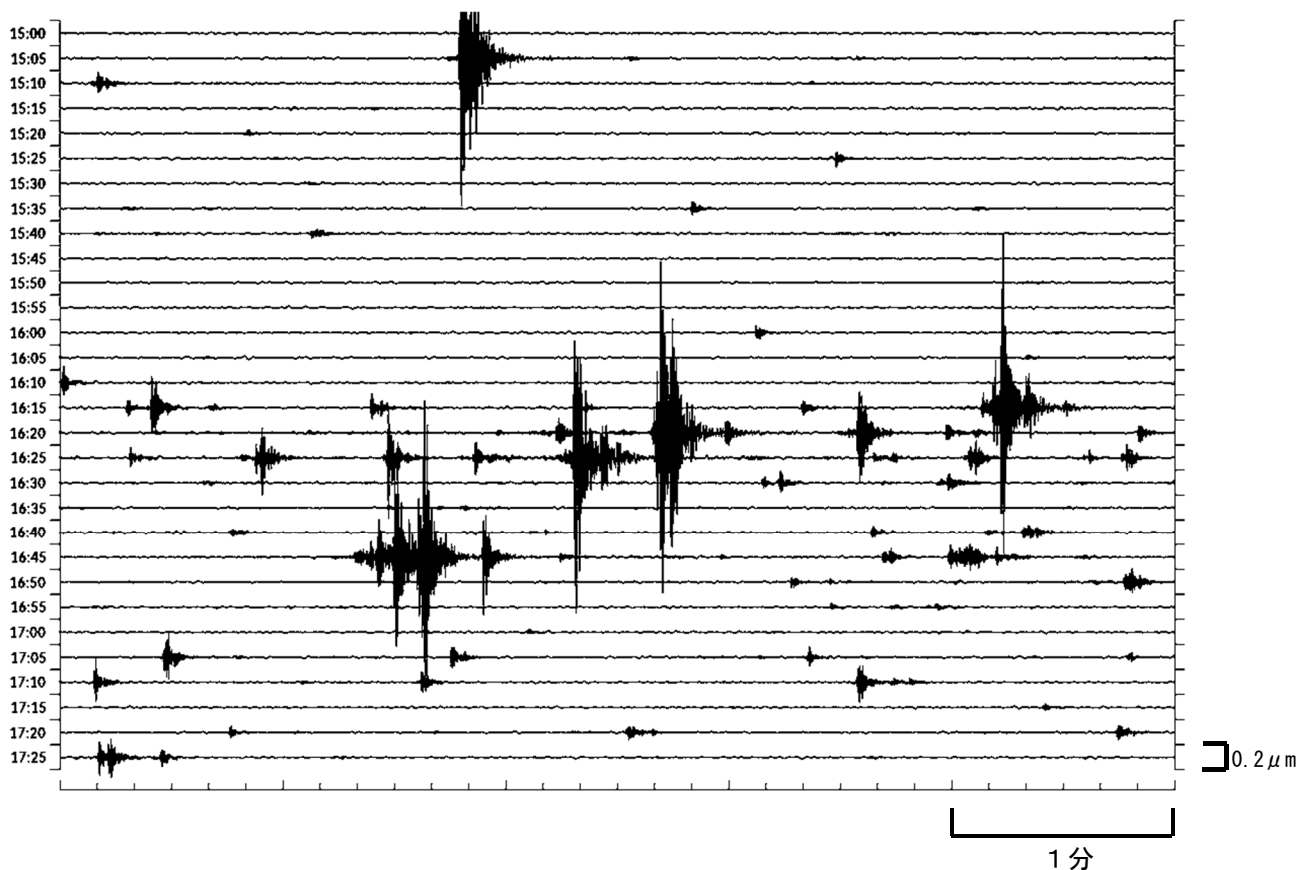


図2 十勝岳 火山性地震の発生状況（2月27日15時00分～17時30分）

避難小屋東地震観測点における東西成分の変位波形

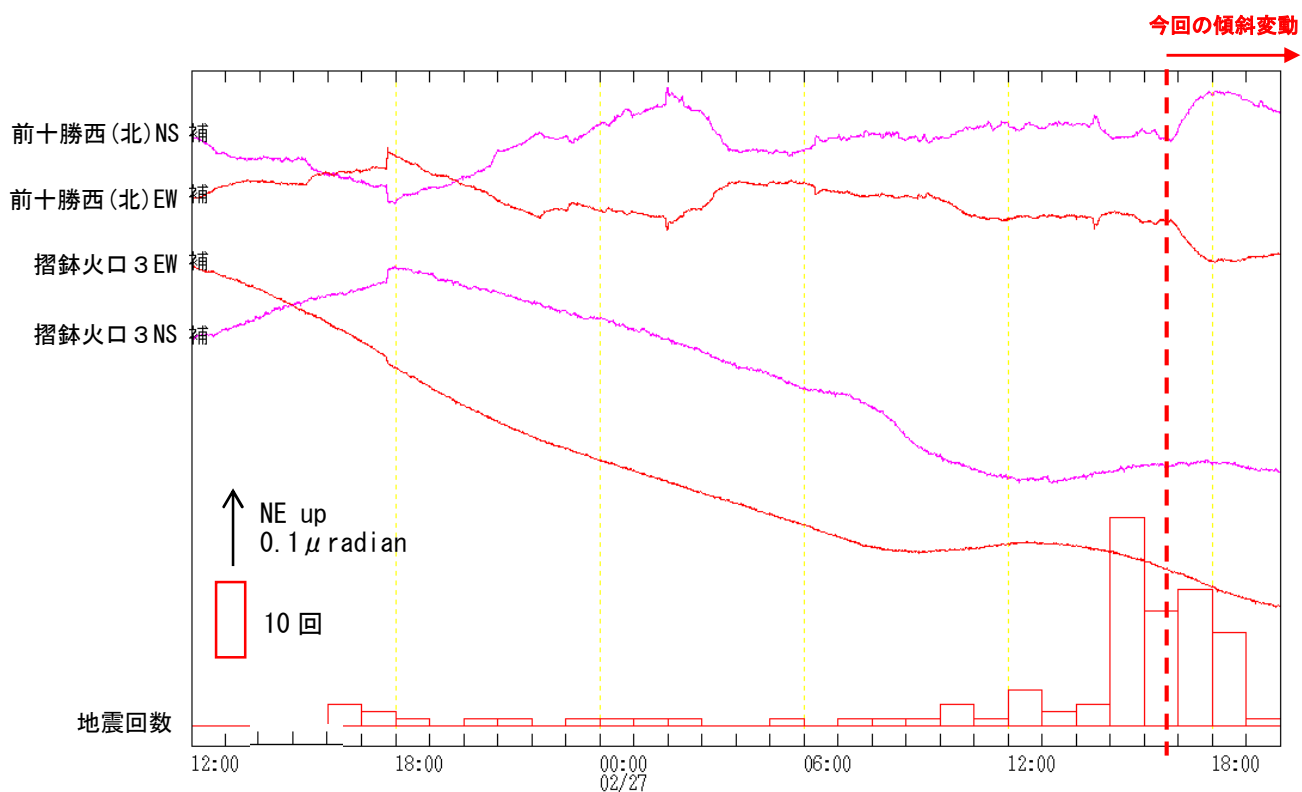


図3 十勝岳 2月26日12時00分から27日20時00分までの傾斜変動(分値)
・北海道大学が設置した前十勝西の傾斜計では、16時頃からごくわずかな傾斜変動が観測されました。



図4 十勝岳 北西側から見た火口周辺の状況
(2月27日16時33分、白金模範牧場監視カメラによる)

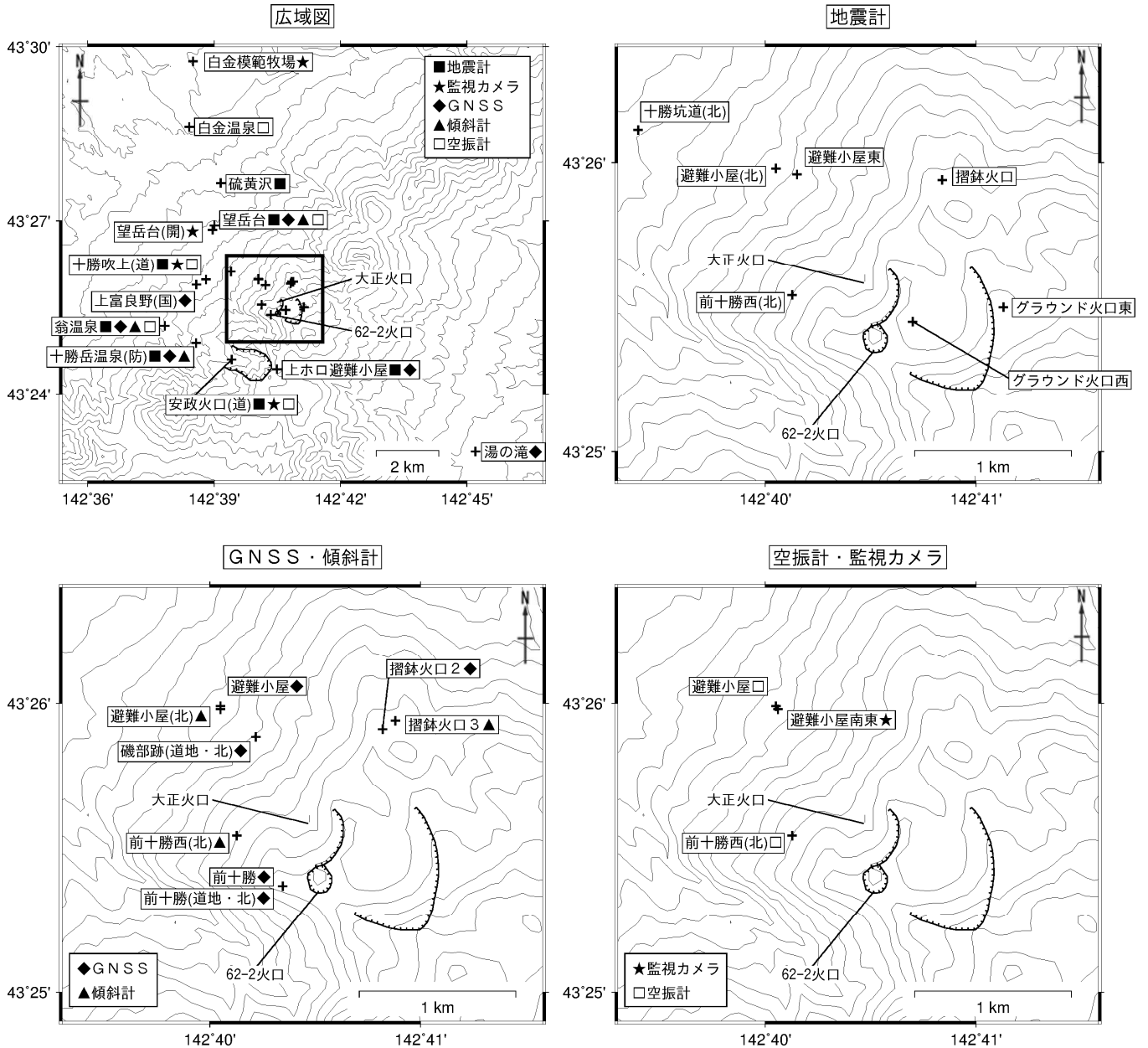


図5 十勝岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の口で示した領域を拡大したものです。

＋印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

- (開) : 国土交通省北海道開発局
- (国) : 国土地理院
- (北) : 北海道大学
- (防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所
- (道) : 北海道
- (道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所